

ぶらっとサロン通信 令和 2 年 9 月号



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後 1 時過ぎから午後 4 時半ごろまで、朝日 2 丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、誠に口惜しいのですが、3 月 10 日から自粛し**現在休局中**です。



江戸時代の園芸ブームの先駆けとなったツバキ。二代将軍秀忠は全国からツバキの名花を集め、江戸城内に植栽。江戸初期には園芸品種が 600 を超え、今日につながる華麗なツバキの花の基礎が築かれました。ツバキは日本原産の常緑高木で、古くからツバキ油やまじないの杖に利用されるなど、人々の暮らしと深く結びついた植物でした。室町時代から安土桃山時代になって、京都を中心に庭園文化や茶の湯が発達すると、ツバキの花が珍重され、鑑賞されるようになります。

江戸時代初期の寛永年間(1624~44 年)には、花好きで知られた二代将軍秀忠(1579~1632 年)が特にツバキを好んだことから、武家だけでなく、経済力をつけた町人から庶民まで、ツバキの愛好家がふえ、江戸の園芸ブームの先駆けとなりました。 ~NHK 趣味の園芸 2020.1 月号より

上図は『江戸図屏風』の御花畠〜ツバキはお花畠の半分以上を占め、花色の異なる品種が描かれています。

前号につづき『椿花集(1879)』に載る江戸期の古典品種に 『三鳥』(呼子鳥・稲負鳥・都鳥)『三妻』(雪見車・月見車・花見車)『五木』(唐錦・羽衣・春の台・後瀬山のちせやま・鉤簪(つりかがり))『七木』(鶏の子・緋縮緬・春日野・沖の浪・見驚・限り・漣浪(さざなみ))があります。今回は『椿花集三妻』についてご案内します。

『椿花集 三妻』 「雪見車(ゆきみぐるま)」 「月見車(つきみぐるま)」 「花見車(はなみぐるま)」



雪見車(ゆきみぐるま)

C.j. 'Yukimiguruma'

白色 一重 平開咲き 輪芯 中〜大輪

1859 年の「椿伊呂波名寄色附」に載る古い品種。関東では唯一の白色輪芯種

※C.j.=Camellia japonica の略



(中部) 月見車(つきみぐるま)

C.j. 'Chûbutsumiguruma'

桃色 底白 一重 平開咲き 輪芯 中輪
三妻は、みな輪芯の車咲きに統一されたものであり、現在一般に栽培されている筒しべの月見車ではなく、輪芯の本品種(中部月見車)が元来のものであったと思われる



(関東) 花見車(はなみぐるま)

C.j. 'Kantôhanamiguruma'

淡桃色地 紅色小絞り 一重 平開咲き 輪芯 小輪

1859 年の「椿伊呂波名寄色附」に載る古い江戸椿。

※三妻は輪芯の車咲きに統一されている

椿の説明等は「新装版日本の椿花園芸品種 1000」横山三郎 桐野秋豊淡交社刊等から引用しました。